

JASRA ニュース VOL.15/2025.07.15

「CCUS」プラントを元請け登録可能に！

「CCUS（建設キャリアアップシステム）」とは、技能者の保有資格・社会保険加入状況などを確認し、現場の就業履歴から業界を横断的に登録・蓄積して活用する仕組みです。技能者の能力・経験等に応じた適正な処遇改善につなげ、若い世代が安心して働き続けられる建設業界が目指されています。CCUSは、技能者本人がシステムに登録し（会社が代行登録可能）、IDが付与されたCCUSカードを携帯することがスタートになります。その上で、いつ、どの現場に、どの職種で、どの立場（職長など）で働いたのかを就業履歴として電子的に記録・蓄積します。並行して資格の取得や講習の受講履歴など、技能・研鑽の記録を登録します。

CCUSカードのレベル4（ゴールド）になるためには、保有資格として「登録土質改良基幹技能者」講習もしくは優秀施工者国土交通大臣顕彰、経験年数10年、職長経験3年が必要になります。その経験年数は、CCUSのカードタッチと経歴証明書で証明されます（現段階では、令和6年3月末までの履歴は所属会社が経歴証明書を発行可能）。

これまで、土質改良プラント運営事業者は、このCCUSによる証明を元請け会社に依頼しなければ就業履歴を残せませんでした。この度、土質改良プラント運営事業者が「元請け登録」できるようになり、1プラントを1現場として扱えるようになりました。

これにより、土質改良プラントに所属する職員を自社で技能者登録・能力評価することができます。事業者および技能者の登録方法など、詳細はCCUS公式サイトでご確認ください。

【メールによる問い合わせ先】ccus01@kensetsu-kikin.or.jp

参考：「建設キャリアアップシステム」公式サイト

参考：国土交通省「CCUSポータル」能力評価制度について



「登録土質改良基幹技術者」第1号合格者を表彰

JASRAは第1回「登録土質改良基幹技能者」講習を終え、その合格者第1号を6月20日に開催した「第6回 JASRA 建設発生土リサイクル講習会」にて表彰しました。受賞者は、静岡県三島市に所在する鶴よし建設（株）の石塚旬氏（写真右）。第1号を記念して、赤坂理事長より合格証と副賞が授与されました。

第2回講習は、本年11月15・16日に損保会館（東京・御茶ノ水）で開催予定です。

詳細：<https://jasra.or.jp/sict/index.html>



会員紹介

佐藤建設 株式会社

山形県鶴岡市矢馳甲 33 番地

TEL 0235-24-6878

設立 50 年の実績

当社は昭和 48 年（1973 年）創業し、一昨年で 50 周年を迎えることが出来ました。現在は東北地方整備局、山形県、鶴岡市等の公共事業を主に請け負っております。平成 12 年（2000 年）に自走式土質改良機を導入し、軟弱土の土質改良や無機汚泥の中間処理を行って参りました。

その改良に必要な土の強度試験・配合試験も自社で行い、土に対してのトータル的な提案をしながら、数々の現場に対応しております。

当時は、土の改良など見向きもされず、「土は捨て、新材の購入土対応」が主流であり、改良土を認知してもらうまで数年の時間を要しました。平成 15 年に鶴岡市立荘内病院改築事業に伴う公共での土質改良約 20,000 m³を手掛けてからは徐々に施工数が増え始め、平成 18 年頃から山形県では初めての公共下水道事業で発生土を土質改良し埋戻材として再利用するのに採用されました。



▲ 公共土木工事と改良工事での人員、機械等の有効的活用

以来、現在も下水道工事での土質改良事業を行っております。

最近では、河川の河道掘削で発生する土を土質改良し、盛土材料として使用してもらえるようになりました。現在、自走式土質改良機 4 台で、プラントや工事現場での土質改良を行っております。

佐藤建設の強み

●長く培ってきた技術力

創業以来 50 年にわたって培ってきた経験と技術力が当社の強みです。国、県等から数々の表彰を受賞しました。



土質改良・地盤改良 25 年の実績

●2000 年からのリテラ改良に関する実績

土質改良機としてコマツ社の自走式「リテラ」を使い、鶴岡市からの下水道工事で建設発生土の改良を年間約 12,000 m³手掛け、無機汚泥の中間処理も行っております。地盤改良に関しても年間約 15,000～20,000 m³の改良を行っております。河川の河道掘削での建設発生土改良においては、年間約 40,000 m³程の実績を有しております。

2022 年 2 月、（一社）全国建設発生土リサイクル協会の正会員として入会しました。

2024 年 1 月、（一社）庄内田川建設発生土リサイクル協会を発足し、建設業協会鶴岡支部の会員が会員となり活動を行っております。

●土質改良のトータルサポート

プラント内で土質改良に必要な土質試験や安定処理に関する強度・配合敷試験を行い、適切な土質改良・地盤改良の提案をしております。特定の工事に限定せず、不特定多数の建設発生土の受入れを行い、改良土の製造・出荷を管理しております。



社会貢献活動

当社は「山形県マイロードサポート事業」での道路清掃活動、沿線での花いっぱい活動を行っております（写真左下）。また、平成 28 年より地元小学校児童と共に「サクラマスの放流事業」を行い、子供たちの教育支援もしております（写真右下）。今後も当社の強みを生かし、積極的に地域社会の貢献活動に取り組んで参ります。



会員紹介

有限会社 鷺斫り

福島県いわき市小浜町中ノ作 129-2
TEL 0246 - 63 - 5173

企業概要

当社、鷺斫り（サギハツリ）は 1978 年に創業し、木造、RC 造、鉄骨の総合解体を開始。環境問題を重視し、適切な処理を行って参りました。深刻化する廃棄物問題と環境保全・資源活用の気運の高まりに対応して、各種のリサイクル施設を設置し、より良いリサイクル製品を生産し、資源循環型社会の形成を社員一丸となって日々努力しております。



災害対応事業

令和元年に発生した台風被害により、夏井川では 100 万 m³ 超の河川内建設発生土の搬出工事がありました。全長 67 km の河川に乗り入れるトラックが走行する仮設通路設置には、セメントを使用した土壌改良にて施工されました。土の搬出が終わると、通路撤去のための掘削が始まりましたが、土壌改良を行ったために一部の発生土から環境基準値を超える pH が検出されてしまいました。

土壌の中和処理により「即日の土砂搬出が可能に！」

コマツ社の自走式土質改良機「リテラ」を現場に導入し、現場内で土壌改良を行い、pH 値を基準値の 8.6 まで下げることができ、通常の建設発生土と同じ扱いで搬出することが可能となったのです。そのポイントは以下の通りです。

① 配合設計から施工までを管理

事前調査から、アルカリ土壌の状態に応じた中和剤の混合量を算出し、中和処理土の品質管理を行いました。

中和目標（pH8.6 以下）に収まっているかを判断するために、仕様書では 1,000～4,000 m³ につき 1 回の割合で行うと記載されていましたが、当該現場では 2,000 m³ に 1 回の試験を実施し、すべて基準値以下であること確認。

② 処分コスト、工期短縮

通常、中和処理場による処分は、

重機掘削 ⇒ ダンプ積込・運搬 ⇒ 中和処理場にて処理 ⇒ 積込・処分場搬出

と、処理場・処分先の位置により移動時間・運搬費が加算されますが、リテラによる処理では、

現地にて重機掘削 ⇒ 中和処理 ⇒ 一般残土として搬出

となるため、コストと工期を大幅に短縮できました。

上記のほか、当社は「エコアクション 21」を取得し、環境負荷を減らす努力を続けて参ります。

会員紹介

株式会社 谷田建設

佐賀県佐賀市大和町久留間 3180-4
TEL 0952-73-9955

谷田建設とは

1973 年に谷田琢雄が圃場整備の土木業として創業し、1989 年に谷田政行が産業廃棄物処理業に着手。1994 年には中間処理業の許可を取得し、今となっては 6 か所の中間所施設に拡大しています。中間処理の中には、瓦リサイクル製造や建設汚泥・泥水の受け入れ行い、自走式土質改良機「SR-G2000」を用いて安定化処理土の製造販売まで行っています。また、2015 年には安定型最終処分場をオープンしました。

これからのサーキュラーエコノミーへの取り組みとして、埋立処分から資源循環を考えております。谷田建設のキャッチコピーとして『捨てるから作るへ』を掲げており、建設発生土を始め、産業廃棄物から 100%リサイクルを目指し、将来の美しい地球と将来の子供達を守ります。

自走式土質改良機「SR-G2000」

現場で発生した建設発生土を改良し、その場で再利用する事ができる自走式土質改良機、日立建機日本社「SR-G2000」を 2008 年に導入し、2020 年に 2 代目が稼働を始めました。セメント系固化材により安定化処理土として販売を行い、多くのお客様から喜んで使って頂いております。



廃瓦の再利用

廃瓦はこれまで埋立処分をされていましたが、1000℃以上という高温で焼かれた瓦は多孔質で透水性保水性に優れる良質な資材ととして利用することができます。そうすることによって、安定型最終処分場の埋立て量を減らすことができ、リサイクル材として多くの利点を持つ瓦を資材として使用する事で、資源を未来に残すことに繋がると思われます。



第6回建設発生土リサイクル講習会 報告

「サーキュラーエコノミー推進のための建設発生土リサイクル」

令和7年6月20日、第6回 JASRA 建設発生土リサイクル講習会「サーキュラーエコノミー推進のための建設発生土リサイクル」が静岡県静岡市の会場と WEB で併催され、合計約 90 名の参加者が集った。冒頭に、来賓として静岡市の吉田信博副市長が挨拶された。

第1部では、国土交通省から「建設発生土の有効利用について」および「建設工事から発生する土の搬出先の明確化等」について講演され、建設リサイクル推進計画 2020 における建設発生土の課題や、ストックヤード運営事業者登録制度などが解説された。

第2部では、盛土規制法の起点となった静岡県における建設発生土有効利用への取組を紹介。静岡県における産学官一体となった組織「みらいの県土研究会」での成果、静岡県における養浜資材としての建設発生土有効利用、静岡市における建設発生土処理地公募など、先進的な事例が数多く発表され、参加者の関心を集めた。

第3部では、JASRA より「登録土質改良基幹技能者」の講習が開始されたことが発表され、“土質改良技能者”の意義と展望が語られた。続いて、(一社)建設業振興基金より技能者の能力評価に関わる「CCUS (建設キャリアアップシステム)」の活用、(一財)先端建設技術センターより「土質改良プラント認定制度」の紹介が行われた。

いずれも、建設発生土を取り巻く環境を全国的に整備していくための必要な情報であり、今後も講習会の開催で各地の事例を紹介しながら、サーキュラーエコノミーの推進を図りたい。



▲静岡市・吉田信博副市長も駆け付けた



▲静岡市の会場だけでなく、WEB 参加者からも多くの質問が寄せられた

お知らせ

【1】行事予定

- ・10月1日(水)2日(木):「けんせつフェア北陸 2025 in 新潟」出展 /会場:新潟市産業振興センター(新潟市中央区)
- ・10月14日(月):土サミット 2025 /会場:京都大学百周年記念ホール(京都市左京区)

【2】定時社員総会の予定

- ・8月21日(木):「第5期定時社員総会」/会場:第一ホテル東京(東京都港区)

【3】7月15日現在の会員数

- ・正会員68社 賛助会員34社 特別会員2社 合計104社

事務局

一般社団法人 全国建設発生土リサイクル協会

〒101-0023 東京都千代田区神田松永町 22

電話: 03-3526-2129 FAX: 03-3526-2139

E-mail: jimukyoku@jasra.or.jp URL: <https://jasra.or.jp/>

-----JASRA ニュース VOL.15 令和7年7月15日発行-----